

「行徳ふれあい伝承館」を訪ねて

第1班 株式会社布川商店
布川 幸一郎（月報委員）

この度、月報委員になりました1班の布川です。皆様には是非紹介したい場所がありまして、投稿させていただきます。

それは、私の住む浦安市の隣町にある「行徳ふれあい伝承館」です。私がこの場所を知ったいきさつというのも、つい最近のことで、そこからお話をしていきます。

5月の中頃に、数十年来行徳に住む私の友人から問い合わせの連絡がありました。

追伸、彼のうちは代々地元で大工さんをしております。

その彼から、「冬木町の押見銘木店さんを知らないか」との問い合わせでした。「なぜか」と聞くと、彼は、「うちの兄貴が冬木町の神輿を浅子神輿店で造った際に、旧行徳市街を練った様子を押見さんが8ミリで撮った記録があるので、それを譲って欲しい」とのことでした。

私もそれではということで、偶然にも親戚が冬木に居るので聞いてみたところ、今では押見さんは店をたたみ、お孫さんが住んでおられるとのことでした。しかし、記録は残念ながら残っておりませんでした。ところが、当組合の元常務理事の山崎氏のご紹介で、冬木町の神輿総代の藤原氏から、昭和37年の連合神輿行脚のDVDを頂き、それに一部8ミリの画像が残っておりました。

それを見た行徳の方々は、大変感激したそうで、伝承館でも常時上映するようです。

そんな訳で、これから浅子神輿店についてお話をしていこうと思います。

創業は、室町時代後期で当主は代々浅子周慶を名乗り、平成20年に16代当主の急逝に伴い閉じました。その間、千基を超える神輿を世に送り出し、中でも富岡八幡宮宮元の1番、2番は、16代製作のものです。

しかし、創業当初は浅子屋といい、周慶は仏師だったそうで、神社仏閣の建設、仏様の彫刻など、すべてのことに関わっていたそうで、特に12代が慶応4年(1868)に成田山新勝寺に明王像を納めたことを始めとし、昭和期まで全国の寺院の衆目を集めていたそうです。明治以前は、祇園祭でみられる縦長の京風の形が多く、以降の近代の形は13代から造り始められたそうです。

別表をご覧いただければお分かりのとおり、富岡八幡宮社中の神輿は宮元をはじめ、周慶作が数多くあることがお分かりになると思います。

ご興味がございましたら、是非とも「行徳ふれあい伝承館」にお足をお運び願えたらと思います。

最後に、取材協力をいただいた行徳まちづくり協議会の皆様に感謝申し上げます。

1. わがまち行徳のあゆみ

「行徳」は、1300年代から歴史に現れます。ここでは、まちの変遷を年表で眺めていきます。

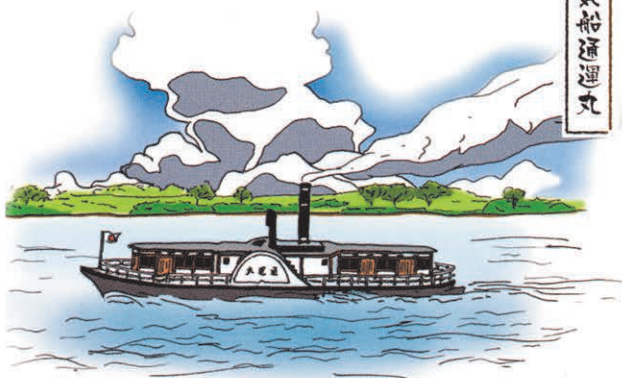
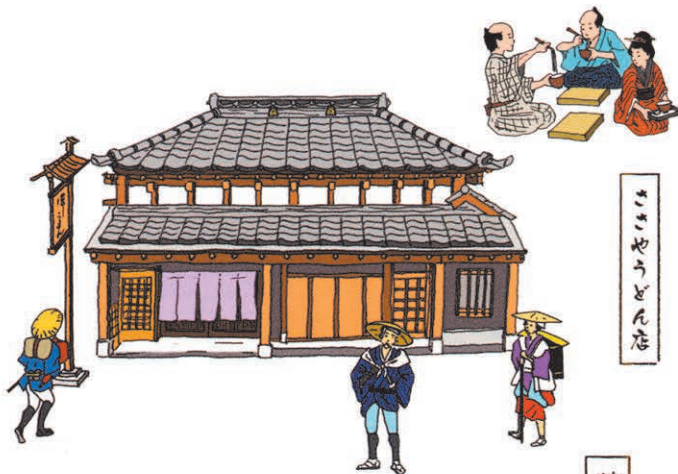
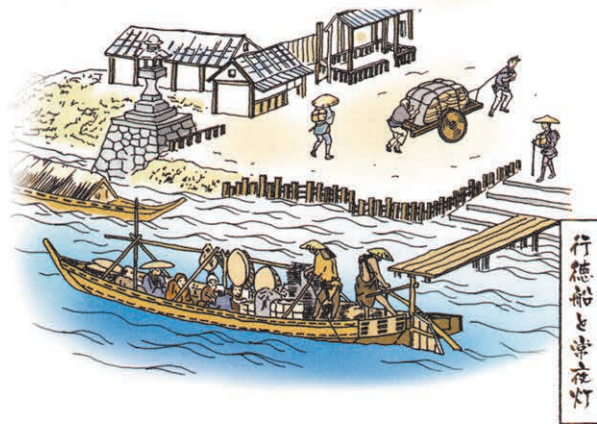
時代	和暦	西暦	行徳のできごと
南北朝	「行徳」の地名初見		
	応安 5年 至徳 4年	1372 1387	日本の歴史の中で「行徳」という地名が現れるのは1300年代後半 室町時代である 「香取文書」「藤氏長者宣寫」に「戸崎・大堺・行徳等關務」とある 「香取文書」「大中臣長房讓状」に「きやうとくのせき（行徳の関）合五ヶせきの事」とある
室町	「国府台合戦」により北条氏の支配下となる		
安土桃山	永禄 7年	1564	小田原北条支配下である七村を行徳七浜と称する （稲荷木、大和田、田尻、高谷、河原、妙典、本行徳の七村）
	永禄10年	1567	塩年貢を小田原へ船で納める
	天正18年	1590	小田原北条氏降伏、徳川家康、江戸に入城 行徳塩浜を徳川家の直轄領にする 小名木川の開削を命ずる 後、寛永6年（1629年）に新川を開削し、小名木川を川幅20間に改修する
	天正19年	1591	本行徳の農民、江戸城への行徳塩の輸送を始める
	徳川家康、江戸幕府を開府		
江戸	慶長 8年	1603	朝廷から征夷大將軍に任じられた家康が江戸幕府を開府
	慶長13年	1608	家康、行徳領塩浜開発 手当金三千兩与える
	慶長19年	1614	家康、東金へ渡御 今井の渡しから行徳を通過
	元和 3年	1617	秀忠、行徳領塩浜開発 手当金二千兩与える
	元和 6年	1620~	狩野浄天、田中内匠の兩人、内匠堀を造る
	寛永 5年	1628	家光、行徳領塩浜開発 手当金千兩与える
	寛永 9年	1632	行徳～江戸の航路が整う（行徳船の運航が始まる）
	寛永12年	1635	本行徳神明社、本行徳中洲（現在の江戸川区上篠崎）より本行徳一丁目の現在地へ遷座
	貞享 4年	1687	松尾芭蕉、本行徳から木下道にて鹿島へ吟行
	元禄 3年	1690	新たな行徳船津が新河岸に築かれる
	享保元年	1716	本行徳神明社、祭礼に屋台を出す （この年、本行徳村より、行徳新田（現本塩）を分け、本行徳町内を四丁に分ける）
	文化 9年	1812	江戸日本橋講中、本行徳新河岸に成田山常夜灯を建立
	安政元年	1854	現在の笹屋うどん店跡の建物が建築される
	安政 2年	1855	安政江戸地震と津波で塩田荒廃す
明治維新			
明治 4年	1871	廃藩置県 県庁を本行徳村徳願寺に仮設	
明治 6年	1873	千葉町が県庁所在地となり千葉県が誕生	
行徳各村に小学校設置			
明治	明治 6年	1873	学制により、寺に小学校が作られる 行徳小学校が徳願寺を仮校舎として開校 源心寺に欠真間分校（南行徳小学校前身校のひとつ）開校 妙行寺に原木分校（信篤小学校前身校のひとつ）開校 湊小学校（南行徳小学校前身校のひとつ）が法伝寺に開校
	明治 7年	1874	新井小学校（南行徳小学校前身校のひとつ）が延命寺に開校
	明治16年	1883	蒸気船通運丸、深川高橋～行徳新河岸間の定期便就航

家康の天領になったとき、既に
行徳寺町が出来上がっていた。

この頃までに行徳・南行徳地域に
神社・寺院が多く建立される。

このころ、江戸より文人が多数行徳を
訪れる。(松尾芭蕉、十返舎一九、小
林一茶、渡辺華山、大原幽学)

江戸時代には、何回もの台風による高潮
や大地震が起こった。その度に人々は災
害から立ち上がり塩作りを守り抜いた。



暦応元年(1338)
足利尊氏 室町幕府を開く

応仁元年~文明9年(1467~77)
応仁の乱

天正4年(1576)
織田信長 安土城を築く

天正18年(1590)
豊臣秀吉 全国統一

慶長5年(1600)
関ヶ原の戦い

慶長8年(1603)
徳川家康 江戸幕府を開く

慶長17年(1612)
キリスト教禁止令

寛永14~15年(1637~38)
島原・天草の乱

寛永18年(1641)
鎖国完成

文政4年(1821)
伊能忠敬の日本地図が完成

天保4~10年(1833~39)
天保の大飢饉

慶應4~明治2年(1868~69)
戊辰戦争

時代	和暦	西暦	行徳のできごと
明治	明治22年	1889	本行徳、伊勢宿、関ヶ島などが合併し、東葛飾郡行徳町となる 新井、欠真間、湊、押切、湊新田が合併し、南行徳村となる
	明治26年	1893	宮内庁新浜鴨場（御猟場）を設置
	明治27年	1894	総武鉄道が市川～佐倉間で開通、その後銚子まで延伸（水運の衰え）
	塩専売法が公布される。相次ぐ大災害		
大正	明治38年	1905	塩専売法公布 製塩は許可制となる
	明治42年	1909	東葛人車鉄道、鎌ヶ谷～中山間に人車鉄道の運行を始める
	大正 2年	1913	東葛人車鉄道、河原まで延伸
	大正 5年	1916	江戸川放水路の開削工事が始まる
	大正 6年	1917	大正6年の高潮
	大正 7年	1918	江戸川放水路開削や、鉄道の整備などにより、東葛人車鉄道が全線廃止
	大正 9年	1920	江戸川放水路竣工
	大正10年	1921	東葛乗合自動車、八幡～浦安間のバス運行を開始
	大正11年	1922	江戸川放水路に木製の行徳橋完成
	昭和 4年	1929	塩業地整理により製塩の禁止、田畑へ転換 稲作、蓮根栽培が普及する
	昭和 9年	1934	市川町、八幡町、中山町、国分村が合併 市川市発足
昭和	昭和12年	1937	南行徳村が町制施行
	昭和17年	1942	京成乗合自動車、東葛乗合自動車の営業を継承
	昭和18年	1943	江戸川水閘門の完成
	行徳、市川市に合併（行徳支所開設）		
	昭和30年	1955	行徳町、市川市に合併
昭和	昭和31年	1956	南行徳町、市川市に合併
	行徳地先海面埋め立て（公有水面埋立事業）始まる		
	昭和32年	1957	行徳可動堰竣工、堰上部に一体化した行徳橋完成 公有水面埋立事業開始（～1986）
平成	行徳水郷に区画整理実施		
	昭和41年	1966	行徳・南行徳地域に8つの土地区画整理組合が設立認可され、土地区画整理が始まる
	昭和44年	1969	地下鉄東西線、東陽町～西船橋間が開通 行徳駅開業
	昭和47年	1972	県道新行徳橋開通 この頃、住民の増加に伴い学校増設
	昭和56年	1981	南行徳駅開業
	昭和63年	1988	JR京葉線開通、市川塩浜駅開業
	昭和63年	1988	浅子神輿店、千住素盞雄神社に千貫神輿を船渡御
	平成 3年	1991	浅子神輿店、富岡八幡宮に御本社神輿を船渡御
	平成12年	2000	妙典駅開業
	平成20年	2008	浅子神輿店閉店
	平成21年	2009	常夜灯公園オープン
令和	平成30年	2018	市川市行徳ふれあい伝承館開館
	平成31年	2019	妙典橋開通
	令和 2年	2020	行徳橋架け替え

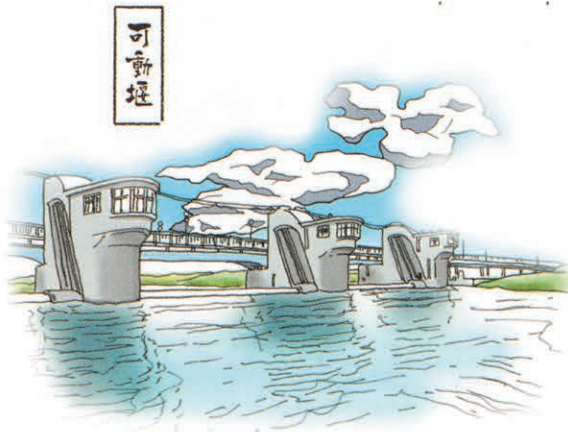
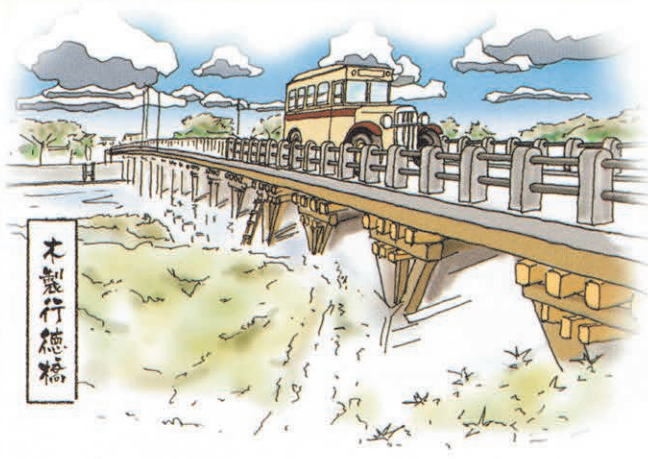


<変わりゆく行徳>
土地区画整理事業による住宅地化

土地区画整理は昭和41年の南行徳から始まり、平成12年の妙典まで続いた。住宅の立ち並ぶまちへ変化していった。
なお、平成28年から令和元年まで塩浜第1期区画整理が行われた。

古積塩により、行徳の塩事業を維持していた。

※古積塩：苦汁分を除いた目減りをしない塩。行徳で発明



農家の死活問題：地盤沈下

昭和30年代後半からの地盤沈下により、米作り・蓮根作りは困難になった。

各農家の土地の一部を、学校、公園などの公共用地として提供した。



明治27~28年(1894~95)
日清戦争

明治37~38年(1904~05)日露戦争

明治43年(1910)日韓併合

大正3~7年(1914~18)

第一次世界大戦

大正7年(1918)米騒動

大正12年(1923)関東大震災

昭和6~7年(1931~32)満州事変

昭和12~20年(1937~45)日中戦争

昭和14~20年(1939~45)

第二次世界大戦

昭和16~20年(1941~45)

太平洋戦争

昭和20年(1945)東京大空襲
広島、長崎に原爆投下 敗戦

昭和21年(1946)

日本国憲法公布

昭和31年(1956)国際連合に加盟

昭和47年(1972)
沖縄が日本に復帰

昭和53年(1978)

日中平和友好条約

平成7年(1995)
阪神・淡路大震災

平成23年(2011)
東日本大震災

2-2-9 浅子周慶作 仏像・仏具・その他

No.	製作年（和暦/西暦）		名称	納品場所	住所	作製者
1	慶応4年	1868	不動明王像	成田山一切経堂	千葉県成田市	12代
2	不明	不明	大黒天像	成田山一切経堂	千葉県成田市	不明
3	明治14年	1881	山門仁王尊修復	徳願寺	市川市本行徳	13代
4	明治14年	1881	本尊（5尺）三尊	成田山・木更津	上総国木更津町	13代
5	明治14年	1881	本尊	常照寺	相州浦賀港西	13代
6	明治14年	1881	木蓮華花1対（25本立て）木魚2体（楠3尺）	吉祥寺	駒区（文京区本駒込か）	13代
7	明治20年	1887	不動明王像	浅子周慶お不動様	市川市本行徳	13代
8	明治20年	1887	本社建替え	上妙典八幡神社	市川市妙典	13代
9	明治25年	1892	鬼子母神数千体	正中山法華経寺	市川市中山	13代
10	明治25年	1892	経机・造花一對	浄閑寺	市川市本行徳	13代
11	明治25年	1892	祖師堂の修理	誕生寺	安房国小湊 （千葉県鴨川市小湊）	13代
12	明治25年	1892	本堂仏具修繕	日蓮宗光則寺	相州鎌倉（鎌倉市長谷）	13代
13	明治中期頃	不明	日常上人像	正中山遠壽院	市川市中山	13代
14	明治中期頃	不明	日常上人像	峰崎家	市川市本行徳	13代
15	明治26年	1893	本尊大日如来	大覚院	千葉県船橋市海神（西海神村）	13代
16	明治27年	1894	修復物	妙見堂妙福寺	千葉県銚子市	13代
17	明治28年	1895	御宮殿新造 諸尊洗濯	實行寺	北海道渡島国函館舟見町	13代
18	明治28年	1895	諸尊洗濯	常住寺	北海道渡島国函館相生町	13代
19	明治34年	1901	立木観音（大慈悲観世音菩薩）	芦沢家	江戸川区南篠崎	13代
20	明治39年	1906	鬼子母神像	宗教法人正法大乘会	兵庫県赤穂市尾崎	13代
21	明治後期	不明	鬼子母神像	本久寺	市川市本行徳	13代
22	明治44年	1911	池上本門寺客殿内装	池上本門寺	大田区	13代
23	大正6年	1917	日蓮大聖人像・等身大の鬼子母神像、妙光龍王神像	久成寺（青森県）	青森市南津軽郡田舎館村	14代
24	大正10年	1921	一塔両尊像 ・祖師尊像	横浜久成寺	横浜市西区平沼	14代
25	大正末～昭和初期	不明	鬼子母神像	横浜久成寺	横浜市西区平沼	14代
26	昭和3年	1928	鬼子母神像	陽雲寺	市川市中山	14代
27	昭和6年	不明	池上本門寺真骨殿装飾	池上本門寺	大田区	14代

資料提供：成田山新勝寺靈光館、中山遠壽院、横浜久成寺、青森田舎館村久成寺、池上本門寺

2-2-15 主な浅子周慶作神輿1

No.	製作年（和暦/西暦）		納品場所		作者	屋根	備考 （台輪寸法など）
1	明治10年	1877	素盞雄神社	荒川区南千住	13代	延型	四尺一寸※千貫神輿 昭和63年修繕：船渡御
2	明治33年	1900	八剣神社	船橋市湊町（現在：船橋大神宮に合祀）	13代	延型	四尺一寸
3	大正13年	1924	神明社	市川市本行徳	14代	延型	五尺七寸 ※昭和31年大修理
4	昭和2年	1927	豊受神社	市川市伊勢宿	14代	延型	二尺五寸
5	昭和6年	1931	矢先稻荷神社	台東区松が谷	14代	唐破風型	三尺五寸
6	昭和7年	1932	大六天根岸神社	大田区大森北	14代	唐破風型	二尺三寸
7	昭和初期	不明	白金氷川神社	港区白金	14代	唐破風型	三尺
8	昭和10年	1935	月島二号地	中央区勝鬨1～4丁目	14代	延型	
9	昭和11年	1936	鐵砲洲稻荷神社	中央区湊	14代	延型	三尺三寸
10	昭和11年	1936	箱崎四丁目	中央区箱崎4丁目	14代	唐破風型	二尺五寸 総彫樺白木神輿
11	昭和15年？	1940	鬼越神明社	市川市鬼越	14代	唐破風型	二尺八寸
12	昭和15年	1940	美瑛神社	北海道上川郡美瑛町	14代	延型	二尺八寸
13	昭和22年	1947	須賀神社	武蔵村山市岸	15代	延型	二尺八寸
14	昭和25年	1950	富岡八幡宮東陽一丁目町会	江東区東陽1丁目	15代	六角型	二尺六寸
15	昭和26年	1951	石濱神社	荒川区南千住	15代	延型	三尺
16	昭和27年	1952	八丁堀一丁目	中央区八丁堀1丁目	15代	唐破風型	
17	昭和27年	1952	富岡八幡宮東陽五丁目町会	江東区東陽5丁目	15代	唐破風型	二尺五寸
18	昭和28年	1953	八剣神社	葛飾区奥戸	15代	延型	二尺三寸
19	昭和28年	1953	谷戸三輪神社	大田区大森西	不明	延型	二尺四寸
20	昭和28年	1953	豊島二丁目	北区豊島2丁目	15代	延型	
21	昭和29年	1954	長島八雲神社・香取神社末社	江戸川区東葛西	15代	延型	三尺 ※駒札[長島]浅子周慶 駒札[長島町]後藤直光
22	昭和29年	1954	久我山稻荷神社	杉並区久我山	15代	唐破風型	二尺四寸
23	昭和30年	1955	岡本八幡神社	世田谷区岡本	15代	唐破風型	二尺二寸
24	昭和30年	1955	岩戸八幡神社	狛江市岩戸南	15代	唐破風型	二尺
25	昭和31年	1956	岩本町一丁目	千代田区岩本町一丁目	15代	延型	二尺三寸
26	昭和32年	1957	雄武神社	北海道紋別郡雄武町	15代	延型	二尺三寸
27	昭和32年	1957	東神田豊島町会	千代田区東神田	不明	延型	二尺九寸 ※濃緑色加工した渋めの鳳凰に特徴
28	昭和33年	1958	小梳神社	静岡県静岡市葵区紺屋町	15代	延型	二尺三寸
29	昭和34年	1959	日本橋三丁目西	中央区日本橋三丁目	15代	唐破風型	二尺三寸
30	昭和34年	1959	鳥越神社二長町町会	台東区鳥越	15代	延型	二尺八寸 ※鳳凰：ブロンズ
31	昭和35年	1960	三福（三輪）神社	埼玉県三郷市高洲	15代	延型	二尺
32	昭和37年	1962	富岡八幡宮冬木町町会	江東区冬木	不明	延型	三尺
33	昭和60年	1985	寒川神社一之宮八幡大神	神奈川県高座郡寒川町	15代	唐破風型	四尺
34	昭和61年	1986	三鷹八幡大神社	三鷹市下連雀	15代	延型	四尺三寸※当時日本一
35	昭和61年	1986	鎌田天神社	世田谷区鎌田	15代	延型	一尺八寸
36	昭和61年	1986	富岡八幡宮平野一丁目町会	江東区平野1丁目	15代	延型	二尺三寸
37	昭和62年	1987	千住氷川神社四丁目	足立区千住	15代	延型	三尺五寸※修復

2-2-16 主な浅子周慶作神輿2

No.	製作年（和暦/西暦）		納品場所		作者	屋根	備考 （台輪寸法など）
38	昭和63年	1988	富岡八幡宮平野三丁目町会	江東区平野3丁目	15代	唐破風型	三尺
39	不明	不明	富岡八幡宮白河二丁目	江東区白河1丁目	15代	延型	二尺七寸
40	不明	不明	千歳神社	北海道千歳市	15代		二尺八寸
41	不明	不明	江別神社	北海道江別市	15代		二尺五寸か
42	不明	不明	当別神社	北海道石狩郡当別町	15代		二尺三寸か
43	平成3年	1991	富岡八幡宮	江東区富岡	16代	延型	五尺※重さ4.5 t
44	平成2年	1991	戸越八幡神社	品川区戸越	16代	延型	三尺三寸
45	平成4年	1992	鳥越神社 （大修繕：60年ぶり）	台東区鳥越	16代	延型	※大規模修繕 千貫神輿（重さ4 t）と称する
46	平成4年	1992	上平井天祖神社	葛飾区東新小岩	16代	延型	三尺
47	平成4年	1992	氷川神社	北海道新冠郡新冠町	16代	延型	二尺三寸
48	平成7年	1995	素盞雄神社	荒川区南千住	16代	延型	
49	平成9年	1997	富岡八幡宮	江東区富岡	16代	延型	四尺五寸 ※重さ：2 t
50	平成12年	2000	亀戸天神社	江東区亀戸	16代	延型	三尺一寸
51	不明	不明	氷川神社	世田谷区喜多見	不明		二尺三寸
52	不明	不明	貴船神社	千葉県鴨川市浜荻	16代	延型	
53	不明	不明	茂原八幡神社	千葉県茂原市茂原	16代	延型	
54	不明	不明	富岡八幡宮東陽三丁目町会	江東区東陽	不明		二尺五寸
55	不明	不明	鳥越神社宮元（鳥越二丁目町会）	台東区鳥越二丁目	不明	延型	二尺八寸
56	不明	不明	鳥越神社柳二町会	台東区鳥越	不明	延型	三尺一寸
57	不明	不明	誉田八幡神社	千葉県習志野市大久保	不明	延型	三尺五寸
58	不明	不明	牛島神社業平二丁目町会	墨田区業平二丁目	不明	唐破風型	二尺六寸
59	不明	不明	浅草神社駒形町会	台東区駒形	不明	延 三社型	二尺二寸
60	不明	不明	箱根神社	静岡県足柄下郡箱根町	不明		

資料提供：素盞雄神社、寒川神社、亀戸天満宮、下連雀八幡大神社、浅子神輿

出典：『行徳の歴史と神輿と祭り』

行徳まちづくり協議会 発行